

行事／取組名称	プレチャレンジ in 静岡		
担当者	原田 勲 (JPhO)、井島秀樹(静岡県教育委員会)		
開催日時・期間	平成 27 年 12 月 25 日 10 時 40 分～16 時 00 分	会場	静岡県総合教育センター(掛川市)
主 催	静岡県教育委員会	後援	
共 催	JPhO		
協 賛			
概要			
昨年度から、静岡県教育委員会高校教育課は「理数分野で卓越した意欲・能力を有する生徒を発掘するとともに、その意欲・能力をさらに伸ばす取組を行うことで、国際的に活躍できる科学者、科学技術者の育成を目指す」という主旨で「オリンピックチャレンジ」事業を始められ、それによって、科学オリンピック国内予選への参加を促している。物理分野では、JPhO が物理講座を支援し、委員を派遣している。講座では、物理チャレンジや国際物理オリンピックの紹介、第 1 チャレンジ理論問題の解説、実験、実験レポートなどについて講義している。 これらの講座を通して参加生徒の物理への興味を喚起し、物理チャレンジへの挑戦意欲を高める効果を目指している。			
参加者	教員	高校生	中学生
教員 2 名		12 名	0 名

報告事項
初回の 8 月 9 日には光岡委員が物理チャレンジの紹介、実験レポートの書き方、そして今年度の第 2 チャレンジの実験装置を用いて、異なった 3 種類の実験から g を測定し、その精度の違いを体感させた。続いて、2 回目の 12 月 13 日には小牧委員が、光の偏光について実験を行い、参加者に光の性質を体感させた。 最後の会となった 12 月 25 日には原田委員が以下のプログラムに従って講義を行った： 1. 科学オリンピックの紹介 2. 光に関するクイズ 3. 光の偏光 4. 回折格子の問題 5. 光は粒子か波動か 6. 私の研究紹介 即ち、国際科学オリンピックの紹介、光を題材にした物理への誘い、小牧委員が行った光の偏光についての補足実験・理論、更には回折格子を用いて簡単な実験を経験させた上で問題を解いたり、解説したりした。その後、粒子と波動の 2 重性について考え、最後には遷移金属の X 線吸収のお話を私の研究成果と関わらせながら話した。 多くの参加者は物理未履修者であったが、彼らは、これまで見たたり聞いたりして知っていた物理的現象がその背後にある数少ない簡単な法則に支配されていることを実感したと感想を述べ、これらの参加者に物理への興味を喚起するに十分であったと自負している。 最後に、この様な生徒を刺激し、科学現象に興味を持たせる取り組みを県として継続されている静岡県教育委員会に、敬意を払うとともに感謝を申し上げ、今後も事業が継続されることを願っている。

